



凡人くらぶ  
清水 宏  
議員

### ▼市役所各部局内での連携、引き継ぎについて

Q 島原城石垣崩壊について、三年前に石垣の異常箇所を担当部署へ写真を添えて報告していたが、その後何も連絡がなかった。どのような処理をされたのか。

A 当時の観光及び建設部局の担当職員で現地の調査、見積もりをして一部は補修を実施した。上司への報告はあったが、その連絡をしていなかったことについて申しわけなく思っている。

Q 船津地区の高潮対策協議会について、五月に会合を開催すると言っていたが、いまだに開催されていないのはなぜか。また、今後の対策は。

A 春先の潮位が五メートルを超える日がなく、高潮被害がなかったことや、八月の台風接近の際にも被害がなかったため開催していない。今後、さらに工事が必要な箇所について県と協議を重ねて調査、検討を行う予定である。

### ▼少子高齢化時代の庶民の幸福とイベント・ハコモノ路線

Q 島原市の①高齢化率、②認知症の状況はどうなっているのか。

A ①二十年四月一日現在で二十八・八％  
②認知症によりケアが必要な方は二十二年十月現在で千七百四十八人である。

Q このような状況の中で、島原道路よりも教育や医療にお金を注ぐべきだと考えるがどうか。

A 交通や情報の整備はさまざまな施策を行う上でも必要であり、今後も力を入れていかなければならないと考えている。

### ▼消費税増税で社会はどのようになるのか

Q 八十年代の税制に戻せば消費税増税は不要だと考える。富裕者の税金を下げ続けてきた結果、国内総生産は伸びているが税収が減っているという事実をどう考えるか。

A 世界が相手となると税率が安い国に行くおそれがあり、法人税や所得税の論議が始まった。国内総生産も昔のような伸び方はしていない。高齢化時代を迎え増大する社会福祉、医療費の問題は社会経済全体で考えなければいけない大きな課題である。



庶民の会  
種村 繁徳  
議員

### ▼道路問題について

Q 県道礪石原松尾停車場線と島原新港工業団地を結ぶ道路を高架にできないのか。

A 二十一年度から国政、県政に対する要望の中で、具体的に立体化を入れてきた。特に高速道路につながる出平からの交通量の増加が十分考えられるため、引き続き要望を続けたい。

### ▼観光行政について

Q 新町の富重跡地はどのような利用を考えているのか。

A 鯉の泳ぐまちの地区と調和がとれ、一体となった整備計画を策定中であり、来年度の着工を目指している。

Q 現在、富重跡地は空き地だが、駐車場としての使用は考えていないのか。

A 鯉の泳ぐまち周辺にはゆとりろぎの湯の駐車場や民間の駐車場もあり、その兼ね合いから常時の解放は行っていない。しかし、観光客の多い時期や朝市、土曜夜市、水まつりなど、多くの来客が予想されるイ

ベント時は、島原観光産業組合などと連携し、臨時の駐車場として活用している。

Q 鯉の泳ぐまちのコイは少ないようだが、どのような管理がされているのか。

A 五月五日にコイの供養と合わせて放流も行っている。その後の管理については、地元の町内会に委託している。

### ▼耕作放棄地について

Q 島原市では何ヘクタールの耕作放棄地があるのか。

A 二十三年度では、田が三・六ヘクタール、畑が十一・八ヘクタールである。

### ▼市内小・中学校周辺の安全性について

Q 小学生の一人下校は避けるべきだと思うがどうか。

A 定期的に集団下校を行っている小学校は八校で、職員が引率するなどして、安全な下校に努めている。なお、小学校の低学年が下校する時間帯には、老人会や婦人会等地域の方々に協力をお願いし、地域ぐるみでの見守り活動に取り組んでいる。また、地域の安全マップ等を活用し、危険箇所を確認や不審者に対する対応の仕方なども各学校で行っている。